

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

数字の向こうにあるもの

相馬市立中村第一中学校 2年 鳥畑 潤乃

私にとって「税」という言葉は、子どもの頃の少しさびしい思い出とつながっていた。母は税に関わる仕事をしており、忙しい時期になると夜遅くまで帰ってこない日が多かった。小さな私は、母を家から遠ざける「税」は、なんだか悪いもののよう感じていた。母は「税は社会にとって役割があるんだよ」と優しく語りかけてくれたが、当時その意味はよく分からなかった。ただ、「どうして母はこんなに忙しいのだろう」と思いながら、帰りを待っていたことを覚えている。

そんな私の税に対する考えが変わったのは、小学校で開かれた租税教室だった。道路や学校、給食やごみの収集など、毎日の生活に欠かせないものに税金が使われていることを学んだ時、私はとても驚いた。今まで遠い話だと思っていた税が、自分の生活を支えていることに気がついた瞬間だった。その日の帰り道、「もしかして母の仕事は、みんなの暮らしを守っているのかもしれない」と考え、母の仕事を少し誇らしく感じるようになった。学校で学んだことを家で母に話すと、母もにこっと笑って「そうだね」と応えてくれた。そのやり取りも、今思えば私の気持ちを変える大切な経験であった。

さらに、母の職場を訪ねたとき、職員の方から「数字の向こうには人がいる」という言葉を聞いた。その言葉は、今でも強く心に残っている。母たちが扱っているのは単なる数字ではなく、その一つ一つの数字の先には、働いて税を納めている人や、税で支

えられている人の生活があることに気付いた。だから1円の間違いも許されず、正確さと注意深さが求められるのだと知った。母が責任を持って仕事に向き合っている姿を思い浮かべ、私は改めて母を尊敬するようになった。税は社会を支える大切な仕組みであり、私たちが安心して暮らせる理由の一つなのだと、あらためて実感した。

私は将来、母のように数字を通して人の役に立てる仕事をしてみたい。そのために、今は数学の勉強をがんばっている。計算を正しくできる力や数字を読み取る力は、将来きっと誰かを助けることにつながると信じているからだ。難しい問題にもあきらめずに取り組むことで、自分を成長させ、少しずつ目標に近づくことができると思う。税は私たちの暮らしを支え、未来につながる大切な仕組みだ。これからも税について学び、その大切さを自分の言葉で周りの人にも伝えていきたい。そして社会の一員として、税を意識しながら生活することで、私も少しずつ成長していきたいと考えている。